
NEWSLETTER

日本保健物理学会

No.54 May, 2009

目次

企画案内	1
第 43 回研究発表会	1
第 6 回 JRSM6 月シンポジウム	2
20 年度理事から (活動を振り返って)	3
21 年度の活動方針について	7
理事会報告	7
平成 20 年度第 4 回理事会	7
平成 20 年度第 5 回理事会	9
平成 20 年度第 6 回理事会	10
平成 21 年度第 1 回理事会	11
企画委員会報告	12
平成 20 年度第 4 回企画委員会	12
編集委員会報告	13
平成 20 年度第 3 回編集委員会	13
平成 20 年度第 4 回編集委員会及び平成 21 年度第 1 回編集合同委員会 (案)	14
国際対応委員会報告	15
放射線防護標準化委員会	16
第 3 回専門部会準備会	16
第 24 回幹事会	16
第 25 回幹事会	17
大学等教員協議会	17
法人化検討 WG	18
若手研究会	18
活動報告	18
学友会	19
活動報告	19
専門研究会報告	19
ICRP 新消化管モデル	19
医療放射線リスク (第 2 回)	20
放射線安全新パラダイム (第 4 回)	20
大学等における放射線安全管理教育連絡会	20
学会掲示板	20
AORCP-3 開催のお知らせ	20
専門研究会の募集継続	21
インターネットグループの活動	21
学会刊行物の案内	22

企画案内

「第 43 回研究発表会」開催迫る

いよいよ研究発表会が間近に迫ってきました。

保健物理の今とこれからを考え、熱く語り合う機会として下さい。コテコテの大阪は、それが似合います。なお、懇親会は大阪を堪能して頂ける「これぞ!」といった企画が揃いました。ネタはばらせませんが、食べ物も、出し物も・・・、出ないと絶対に損をしますよ。

実行委員会一同、心を込めて準備を進めて、皆様のお越しをお待ち申し上げます。

◆研究発表会

会 期：平成21年6月3日(水)、4日(木)

会 場：シェラトン都ホテル大阪

大阪市天王寺区上本町6-1-55

電話：06-6773-1111

近鉄「大阪上本町駅」直結

参加費：会員/7000円、非会員/8000円、学生会員(正・準)/2000円

◆懇親会

日 時：平成21年6月3日(水) 18:00~20:00

参加費：8000円 (学生会員(正・準)は2000円)

◆詳細および問い合わせ先

日本保健物理学会第43回研究発表会実行委員会事務局

近畿大学原子力研究所内

TEL 06-6721-2322 内線 4427

E-mail：jhps43@ned.kindai.ac.jp

研究発表会 URL：<http://jhps43.ned.kindai.ac.jp/>

(実行委員会事務局/近畿大学 杉浦 紳之)

第6回 JRSM6月シンポジウム

主 催：日本放射線安全管理学会

共 催：日本保健物理学会

日 時：6月24日(水) 13:30 ~

25日(木) 17:00

場 所：東京工業大学 大岡山キャンパス (西8号館10階会議室)

参加費：シンポジウム参加費

会 員 2,000円

非会員 3,000円

懇親会の参加費：4,000円(当日受付にてお支払い願います。)

参加申し込み方法:

シンポジウム・懇親会の参加人数を把握するために、来る6月15日までにJRSM6月シンポジウム事務局へ、所属と名前および懇親会の参加の有無を添えて次の電子メールアドレスにて申し込みお願いいたします。

メールアドレス：symposium@ric.titech.ac.jp

第6回 JRSM6月シンポジウムプログラム(案)

6月24日(水)

13:30-13:35 挨拶

日本放射線安全管理学会会長 榎本和義

13:35-14:30 講演

座長 榎本和義

「最近の規制状況とクリアランス制度について」

放射線規制室長 中久隆夫

14:30-15:00

「クリアランスの実際」

コメンテーター 富田悟(東工大), 山口一郎(保健医科院)

15:10-16:10 アドホック委員会報告

座長 西澤邦秀

「放射性ヨウ素の安全取扱法の標準化に向けてーその1」

伊藤、野川、佐瀬、松田、清水各委員

16:10-17:10 特別講演

座長 実吉敬二

「地球温暖化問題と21世紀の気候変動予測」

丸山茂徳(東工大)

17:30- 懇親会

6月25日(木)

10:00-12:00 パネル討論

「放射線測定と検出器に関わる最近の動向」

座長 大内浩子

1. JIS改訂内容 ～1994年版から2008年版への改訂概要, 表面汚染測定, 線量率測定における変更点について～

松原昌平(アロカ(株))

2. 軽量中性子サーベイメータの開発

布宮智也(富士電機システムズ(株))

3. FOMA網を利用した「可搬型放射線モニタリングシステム」の紹介

鎌田貴志(応用光研工業(株))

4. サーベイメータ用シンチレータに於ける近年の動向について

-YAP(Ce),GSO(Ce),LGSO,LaBr2シンチレータの実測データに基づくその特徴と可能性-

鈴木敏和(放医研)

12:00-13:30 昼食

13:30-14:00 企画委員会報告

座長 野村貴美

「手作りソフト研究会」

主査 実吉敬二(東工大)

14:00-14:50 企画委員会報告

座長 馬場 護

「作業環境測定について」のアンケート結果

1. 放射線安全管理学会

主査 河野孝央(核融研)

2. 大学等放射線施設協議会

主査 片田元己(首都大)

15:00-16:00 トピックス講演

「重粒子線治療生物学の進展」

座長 松田尚樹
浜田信行(東北大加齢医学研)

16:00-16:40 企画委員会報告

座長 野村貴美

「ヒヤリハット管理のアイデア知恵袋」

主査 古田悦子(お茶大)
(原子力機構 山崎 直)

20年度理事から(活動を振り返って)

会長 小田 啓二

2007-2008年度の理事会は、平均年齢50.0歳のメンバーでスタートしました。会長の資質に加えたこの若さに対して、一部の会員の皆様の不安の声もありましたが、監事に入って頂きました下先生の手綱と、いつも明るい雰囲気での議論頂いた理事会メンバーの協力があり、何とか任期を終えることができました。まず、皆さんに御礼申し上げます。

2年半前の立候補の時、(1)若手研究者/後継者の育成、(2)「保健物理学」の明確化と拡大、および(3)国際交流活動の推進の3つを活動の柱としたいと表明致しました。前期に導入された準学生会員制度と学友会へのバックアップということで、学友会主催の学生研究発表会を2度開催しました(2007年12月名古屋,2008年12月東京)。現在52名のメンバーが次世代の中心になっていきますので、若手研究会や大学等教員協議会と連携をとって今後も活発に活動して欲しいと思います。

国際交流としては、従来滞りがちであった日中韓3国間交流の整備に加えて、より一層の協力関係に発展させるため、別途日韓交流を毎年行うことにしました。また、2008年10月のIRPA-12の総会における幹事会(EC)メンバーの獲得という大きな使命がありました。理事会での長時間の議論を経て、IRPAの地域協議会であるAOARPの会長(韓国Kim教授)を推すことにし、関連諸国への事前の打診、酒井理事と服部理事を中心としたブエノスアイレスでの直前までの協議の結果、何とかアジア枠を確保することができました。これは今期理事会の大きな成果のひとつと言えます。

以上2つの活動に比べて、医療分野や放射線管理分野の拡大と他学会との連携という面では、日本放射線研究協議会への協力や日本放射線安全管理学会との各種シンポジウム・研究発表会での連携の他、今ひとつ大きな成果を果たせなかったかと反省しております。保健物理学学会の在り方については、今期理事会のもうひとつの重要な活動となった「法人化の検討」の中でも議論となりました。近年の大学法人化や原子力関連二法人の統合等の組織改編に加えて2008年12月に「新公益法人制度」が発足するなど、私たち学会・学会員を取り巻く環境は激変しています。本学会の発展のためには、このような流れを無視する訳にはいかないと判断し、こうした状況に関する調査・検討を行うことを目的として、理事会の下に法人制度検討ワーキンググループを設置しました。検討経緯はホームページに掲載するとともに、2008年9月と2009年3月の会員対象の説明会において紹介しました。また、調査検討活動の結果は報告書としてまとめ、問題点の指摘と対応の提言を行いました。新理事会では次のステップに進み、より適切な選択が行われることを期待します。

最後になりましたが、2年間一緒に悩んできた杉浦副会長と総務担当村上理事に感謝申し上げます。幸い時期も理事会に残られますので、今期できなかった項目にも対応して頂くことを望んでいます。

副会長 杉浦 紳之

理事メンバーが大きく若返り、小田会長が1)関連学会との連携、2)人材育成、3)国際連携の3本柱を掲げ、さらに学会の法人制度について検討した前期、副会長として以下のような一連の学会運営の重要事項に深く関わることができた経験はこれからの大きな財産と考えます。

他学会連携については、日本放射線安全管理学会との連携強化の一環として企画行事の相互参加を定式化したこと、JARRの中で保物学会の立ち位置を明確化できたことは成果の1つと思います。

人材育成については、若手研が企画委員会から独立し学会の正式な組織の1つとして位置づけられました。学友会については自身の活発な活動と山澤担当理事のサポートに任せるのみでしたが、大学教員として足元から参加する学生を若干ではありましたが広げることができました。

国際連携については国際対応担当の酒井理事ならびに服部理事、法人制度の検討については小田会長のご活躍により、学会として一定の成果を得ることができました。

振り返って、組織として活動を強く牽引する者とそれを支える者の存在(のバランス)の重要性はもちろんですが、我々(会員)がひとつに集まる源(そもそもの理由)である学問としての充実をもっともっと図る必要があると強く考えさせられた場面がありました。このことを胸に、今期、さらに頑張ってみようと考えています。

総務 村上 博幸

終わってみるとあっという間の2期4年間でした。後半の2年間については、会員制度の変更に重点を置いて仕事をし、特別会員や休会の制度化、会員証の導入等が実現できました。保健物理学会も会員の高齢化が進み、新たな若い会員の入会が沈滞化している状況でしたが、最近準学生会員をベースとした学友会活動などが活発化し、少し明かりが見えてきたような気がします。ベテラン会員の退会を極力防ぐ目的で考え出された「特別会員制度」ですが、この実現により少しでも会員活動に長く携わっていただければと思っております。会員関係では、今後もさらに外国人無料会員の制度化に向けた検討や相変わらずの過年度会費未払い会員の処置などの課題が控えていますが、次期理事会において、必ずや良い方向に進むものと期待しております。2年前にも同じことを書きましたが、ただひたすら与えられた仕事をこなすだけだったということで、自己評価は70点というところでしょうか。次の2年間は、監事として理事会の活動に関係していくこととなりますが、従来と変わらず、よりよい学会活動のための環境を整備していくという観点から学会運営のお手伝いできればと思っております。今後も法人化の検討という重要課題やAOCRP-3といった大きなイベントが控えていますが、理事会の活動の成果を見守りたいと思います。

企画 古田 定昭

前期より継続して企画委員長を務めた。企画委員会としては、広報理事、インターネットグループと協力して、専門研究会の支援、ニュースレターの発行、企画行事や学会ホームページのメンテナンスなどの活動を実施した。この2年間の企画行事では日本放射線安全管理学会との共催など外部機関との連携により活動範囲を広げるよう活動するとともに、予算的には大きな赤字を出すこともなく、適切に学会運営に貢献できたと思う。また、今年度から専門研究会の活動補助金の上限が従来の10万円から20万円にアップされたので、これからの活発な専門研究会活動を期待したい。さらに、学会活動の重要な情報源である学会ホームページの充実が求められており、後任の方々の斬新なアイデアにより精力的に進めていただきたい。最後に、2期の企画委員長を無事終えることが出来たのも、各企画委員会のご協力があったと思う。支えていただいた委員の皆さんに感謝の意を表したい。

企画 太田 勝正

企画委員会担当理事としての2期目の任期を終えました。

この間、ICRP新勧告の採択に向けて、学会員の関心も大いに高まり、古田企画委員長を中心にさまざまなシンポジウム等を主催し、会員各位へ情報や議論の場の提供等に努めてきました。それ以外にも、医療放射線利用における患者、消費者の関心の高まりに、放射線防護を専門とする当学会としてのどのように対応すればよいか等の検討を重ねて来ました。また今日、日本学術会議からは学会のあり方が問われ、当学会としても、将来の学会のあり方、運営方針について、小田会長が主催する法人化検討WGに加わり検討を重ねてきました。今回の総会にて、報告書が示されます。

理事として、本来ならもっと多くの課題に取り組むべきでしたが、昨今の大学環境の悪化の中で、思うように活動時間を確保できなかったことが悔やまれます。会長、企画委員長をはじめとする多くの役員の方々の献身的な活動により、当学会が健全かつ順調に運営されてきたことに感謝いたします。

 広報 谷口 和史

広報担当として2期4年間、学会活動、理事会活動に参加し、「学会ホームページの充実などインターネット活用の推進、学会活動に関する積極的な情報発信など広報活動の強化」を中心テーマとして活動してきました。広報活動に関する仕事の経験がまったくなかったため当初は右往左往することばかりでしたが、理事長はじめ各理事からのアドバイスもあり、学会を広く報道機関に認知してもらうためにどうするかに軸足を置いて考えるようになりました。とは言え、実際には具体的に見える成果は上げることはできず、ホームページ上に報道機関のリストを掲示したり、各報道機関ホームページの「問い合わせ先」を利用して企画行事の案内を送付するなどに留まってしまいました。また、2期目2年目後半は、業務の都合により学会活動にほとんど参画することができず、人事異動の避けられない企業に属する人間が学会活動に関与することの難しさを痛感しました。

法人化に向けた検討が進められている現状において、学会活動を一般に広く認知して頂くためにも報道機関を対象にした広報活動は重要と考えます。置き土産的で心苦しいですが、なんとか具体的な広報活動の実現を期待したいと思います。

編集 斎藤 公明

編集委員長として保健物理学会誌の編集作業のまとめを主に担当しました。大きな目標として、インパクトファクターを獲得できる学術誌をつくるがありますが、今期はそのための基盤作りと位置付けて活動を行いました。その中で、企画記事が定期的な産み出されるしくみをつくること、編集委員全体でなるべく均等に作業分担を行う体制とすること、定式化により作業効率の向上と継続性の保持を図ること等を念頭に置いて委員会を運営してきました。これらのシステムは徐々に機能を発揮し、学会誌の内容にも反映されつつあると感じています。

今期行った重要な作業の一つに投稿規則・手引きの全面的な改訂が挙げられます。具体的には、電子投稿手順の明記、生命科学に関する倫理的配慮の記述の追加、webサイトを参照するときの考えかたの明示、英語と日本語の内容の同等化等を行いました。これにより、時代に対応したしっかりした投稿システムができあがったと考えます。

残された大きな問題として、論文投稿数が大幅には増えていない事実があります。今期、大会における優れた発表に対する投稿勧誘等を行いました。今後さらに学会員の皆様の協力を得ながら論文の質・量ともに大きく改善していくことを期待します。

最後に、皆様のご協力に深く感謝いたします。

国際対応 酒井 一夫

2006年度までにICRP「新勧告」に関する意見交換などを通じて構築されてきた枠組みを活用して、韓国および中国との連携を進展させることができたものと考えている。2007年の研究発表会（東京）には、韓国放射線防護学会（KARP）のKim会長およびLee次期会長（いずれも当時）を招待し、KARPの活動と韓国における原子力発電の推進をめぐる動きを紹介していただいた。2008年には、保健物理学会から論文賞受賞者を中国放射線防護学会年會に派遣しその内容の紹介を行った。また、専門研究会の研究成果をKARPにて発表した。このようにして、内容に踏み込んだ交流が実現しつつあると認識している。

また、こうして培われた連帯感を基に、IRPA理事会へアジアの代表をというスローガンのもと、各国に働きかけてアジアオセアニア放射線防護学会（AOARP）のKim会長の当選を実現できたことも今後の活動を考える上で大きな意義があると思う。

活動の様子は学会誌等で発表してきたところであるが、さらに企画委員会や編集委員会等と協力して、会員と連携の成果を共有する余地があると認識している。

2009年—2010年度も引き続き国際対応委員会担当を拝命した。会員各位のご協力をお願いしたい。

国際対応・標準化 服部 隆利

国際対応委員会と放射線防護標準化委員会を担当致しました。国際対応委員会では、副委員長としての活動成果として、IAEA BSSドラフトに対する本学会の意見として発信するとともに、中国・韓国の放射線防護学会との連携プログラムの合意及び国際放射線防護学会(IRPA)におけるアジア地域からの理事選出を達成し、学会活動の国際化の着実な進展に貢献することができました。また、放射線防護標準化委員会では、担当理事として幹事会の議論に積極的にリエゾン参加し、具体的なガイド案の検討開始を提案することにより、新たな専門部会準備会の設置に貢献することができました。これらの経験は、次年度からの新理事としての活動に活用し、今後も、本学会のさらなる発展に寄与できれば幸いと存じます。

標準化 猪俣 一郎

この2年間、放射線防護標準化委員会を担当しました。委員会は、私が理事となる1年前に学会の常設委員会として活動を開始したもので、活動当初より関わりがあったこともあり、委員会のみならず幹事会や昨年発足した専門部会準備会にも積極的に参画し、規約類の素案を作成する等、委員会活動の活発化を促がしてきたと自分では思っています。この2年間に、委員会は「放射線防護の重要な概念」（平成20年6月制定）、「現存する被ばく状況に関する防護の安全規準」と関連する3つのガイドライン（平成21年3月制定）を制定する等、目に見える成果を挙げております。海外に向けた活動が国際対応委員会とすれば、国内に向けた活動がこの放射線防護標準化委員会であると思えます。

今般、標準化委員会の担当理事を終えることとなりましたが、今後は標準化委員会の委員として、また新たに総務理事として、本学会活動の活性化に貢献したいと思っております。

大学等教員協議会及び学友会 山澤 弘実

編集、大学等教員協議会及び学友会を2年間担当しました。編集については、斎藤編集委員長、木名瀬幹事のリーダーシップと各編集委員のご尽力により、学会誌の日本語記事及び論文については質・量とも格段の充実が進んだものと考えます。英文論文の拡充については、まだ改善される兆しが見えない状態であり、これら改善点・未改善点の両者について理事として十分関与できなかったことは反省点であると考えます。協議会及び学友会については、協議会の機能を十分発揮させることができなかったことは大いに反省すべきと考えます。

一方、第41回研究発表会での「放射線防護に関する学生フォーラム」、第1回及び第2回「学生研究発表会」の開催や、編集委員会との連携での卒業論文等情報の学会誌掲載により、学生会員層が倍増したこと、大学の枠を超えた学生間の連携が形成され活動が顕著に活発化したこと等、学会の将来にとって明るい材料が出てきました。これらは、学友会の主体的な活動とそれを育てようとした小田会長をはじめとする理事会の理解に負うところが大きいですが、これらに多少でも関与できたことは大きな喜びです。

会計 林 一成

会計担当理事を2年間担当させて頂きました。

会計としては、平成16年発生した学会事務センター破産事件以降、財務経営の健全化が重要な仕事になり、就任期間の2年間も、広告収入の強化、収支の透明性の強化等健全化に努力致しました。

広告収入の強化については、不況が進行する中、思うような成果が上げられなかったことは、残念ですが、広告収入を確保する努力は今後とも必要と考えます。

また、法人化検討委員会にも参画させて頂きましたが、法人化に当たっては、財政基盤の検討は課題の一つと考えます。

学会の理事職を初めて経験しましたが、正副会長、理事会、事務局、そして関連会社の皆さんにサポートしていただき任期を無事終えることができました。

学会の財政基盤の強化は、引き続き学会運営の主要なテーマになると考えます。会員の皆さんの一層の支援をよろしくお願い致します。

会長指名理事 福士 政広

会長指名理事を2年間務めさせて頂きました。

私の役割は医療分野の人材の保健物理学会との橋渡しと考えておりました。しかし、役割の半分も達成することができず会長指名理事の役割が果たせなかったのが残念です。また、保健物理学の分野での医療に関わる問題は大変重要であります。医療分野の研究者の役割は今後も増大することになるものと確信しております。そのためにも医療分野の理事を1名程度確保すべきだったと痛感しております。

今後は一学会員として微力ながら保健物理学会の発展に寄与して行きたいと考えております。

監事 下 道國

監事を終えるにあたって

小田会長の下で監事を仰せつかった。監事の仕事は、一つは会計監査であり、もう一つは保物学会および理事会の運営について、約款に照らし齟齬がないかのチェックである。2年間、それまでより若返った理事会は、小田会長のリーダーシップの下で活発な議論が続けられるとともに、理事各位がそれぞれの責務を滞ることなく果たされていて大変良かった。会計に関しては、担当理事と千葉監査がしっかりしておられたこともあり、特に問題などあるべくもなく、また赤字もなく、気を楽にさせて頂いた。理事会においても、発言を控えるというよりも発言する必要性

があまりなかったというのが正しい。全体としての印象は、常設委員会の活動が活発であったこと、若手、特に学生の活動が指導よろしきを得て活発であり、将来の保物の担い手の育成が順調に行っていることが朗報である。是非とも、国際関係の整備・充実と並んで活動を持続してもらいたい。長年の宿題であった法人化に関して、次期理事会に道筋を提供した点でその努力は多とすべきである。監事として大きなボカをやらした。沖縄大会での監査報告である。総会に遅れて監査報告ができなかったという失態をしてしまったことに関して、ここで改めて陳謝しておきたい。

監事 千葉 吉紀

会計担当理事を2年間、引き続き監事を2年間担当しました。

この間、平成16年8月に発生した学会事務センター破産事件に伴う懸案であった和解金や未収広告料の回収、ならびに財務基盤の健全化が会計の主要な仕事となりました。

また、ここ数年減少傾向にあった広告収入の強化を目的として、会誌の広告代理業務委託先を変更し減少した広告収入を回復することができました。広告収入を確保する努力は今後とも必要と感じます。

監事として学会運営に直接関与する機会はなくなりましたが、小田会長のもと発足した「法人制度検討ワーキンググループ」に参加し、日本学術会議の新公益法人制度への対応状況等の情報提供を行い、検討の材料としていただきました。

学会の理事、監事職は初めての経験でしたが、正副会長、理事会、事務局、そして関連会社の皆さんにサポートしていただき任期を終えることができました。

学会の財務基盤の強化は、引き続き学会運営の主要なテーマになると考えられます。会員の皆さんの一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成21年度の活動方針について

理事会 会長 金子 正人

人間が人間らしく生きるためには、エネルギーの確保、環境問題の解決は避けて通ることが出来ない。放射線防護・管理に関する研究および実務を通じて、人間の健康保持をおもな任務とする本学会においても、より広範な意見を組み上げ、議論し、社会的な影響力を行使していく必要がある。

平成20年度に理事会内に設置された「法人制度検討WG」は、勢力的な調査・検討により、本学会を「一般社団法人（非営利型）」とすることは、いつでも可能であることを明らかにした。しかしながら、法人化にもデメリットがあり、メリットがこれを上回るようにするためには、会員数の拡大等の条件整備が必須のように思われる。

本学会の目的である保健物理に関する学術及び技術の開発を促進し、その成果を社会並びに実務に還元させるため、平成21年度においては、以下の活動方針の下に事業を行う。

- (1) 理事会及び常設の企画委員会、編集委員会、国際対応委員会、放射線防護標準化委員会ならびに各種専門研究会の活動を積極的に行う。
- (2) 国際放射線防護学会（IRPA）の日本を代表する学会として、産・官・学、関連諸団体との連携及び協力を蜜にし、会員の拡大に努める。
- (3) 若手の男女会員を参与として理事会に参画させるなど、若手研究者の視点から学会活動の活性化をはかる。また、学生会員による学友会活動を積極的に支援する。
- (4) 近い将来の法人化に向けて、学会の活動基盤の強化をはかる。
- (5) 第43回研究発表会（平成21年6月、大阪）を成功裏に開催する。
- (6) 第3回AOCRP大会（平成22年5月、東京）に向けて、諸外国との交流を促進し、国際的な連携の強化をはかる。
- (7) わが国における放射線防護基準等を合理的なものとするため、放射線防護標準化委員会の活動を強化する。
- (8) 学会誌「保健物理」の国際的認知度を高めるとともに、「News Letter」及びホームページ等により、放射線の健康影響に関する正しい情報など、有益な情報を会員及び会員外に提供する。

理事会報告

平成20年度第4回 理事会 議事概要

1. 日時：平成20年11月6日（木）14:30-17:40
2. 場所：原子力機構 システム計算センター（上野）7F 会議室
3. 出席者

理事：小田（会長），猪俣，太田，斎藤，杉浦，林，福土，古田，山澤，村上

参与：小池

委任出席：酒井，谷口，服部，下，千葉，荻野

4. 議事概要

- (1) 編集委員会活動報告で，形式査読のあり方，研究発表会参加者に対する投稿勧誘実施等の説明があった。科学技術振興機構の電子アーカイブ対象誌への選定に関し，利点があるので公開する方向で進めることとした。
- (2) 企画委員会報告で，企画行事の結果及び予定，保物メーリングリスト利用の適正化と参加者増員計画，次期専門研究会の募集案について説明があり，内容について了解された。また，学会と日本アイソトープ協会の共同編集による「放射線の人体への影響」の改訂について臨時委員会で対応するため，メンバー等の詳細を検討することとした。
- (3) 国際対応委員会報告で，IRPA12の出席報告としてIRPAのECメンバーの改選結果，IRPA13，IRPA14の開催地の投票結果，IRPA会費の値上げの件などが報告された。また，AOARP理事会，日中韓3カ国協議の状況報告があった。国際対応委員会でIRPA13国際プログラム委員会からのメンバー推薦依頼について対応することが確認された。
- (4) 放射線防護標準化委員会幹事会及び同専門部会準備会等の状況報告があった。
- (5) 大学教員等協議会について，会長の人選について検討中である旨の紹介があった。学友会活動については，第3回学友会発表会の準備状況について紹介があった。
- (6) 平成20年度第2四半期までの会計状況についての報告があった。この中で，学会誌の印刷が占める費用の大きさについての議論があり，今後刊行費を抑える検討をすることとなった。
- (7) 他学会対応として，放射線安全管理学会の研究発表会におけるパネル討論への参加計画についての紹介，JARRに係る「学会誌」の一元化等の提案について報告があった。学会誌の統合については，IRPAとの関連性や他の加盟学会の状況などを考慮して今は加わらないこととした。
- (8) 若手研の活動状況報告として，セミナーの企画，学友会との共同企画，勉強会の計画等の紹介があった。若手研幹事会合等の際の一部参加者に対する旅費の支給については，臨時委員会相当として特に問題はなく，必要な事務手続きを行った上，支給することとした。
- (9) 法人制度の検討に係る活動状況の報告があり，学会名称の商標登録の件，定款の作成方針，法人への移行の方針案等について説明があった。引き続き検討を重ね，来年の総会時に一般法人への移行を目指すことが確認された。
- (10) 平成21年度学会賞に係る外部選考委員について承認され，同募集の周知方法について確認された。
- (11) 名誉会員及び特別会員推薦の基準案，個人情報保護方針案，会員証の発行計画案について，次回の理事会までに意見をとりまとめて実行することとした。また，準学生会員については会員証を発行しないこと，正学生会員の研究発表会参加費用を無料とすることを決定した。
- (12) 平成20年度放射線影響研究功績賞受賞者の推薦について，提案のあった2人の会員に応募を打診することとした。
- (13) 入退会希望者について承認された。
入会：(準学生会員) 5名
退会：(正会員) 2名
- (14) 日本リスク研究学会第21回大会の協賛について承認された。
- (15) 第43回研究発表会準備状況に関し，実行委員会メンバー等について紹介があった。
- (16) 広島大学原医研に関する共同研究拠点化の支援についての要望書の提出について了解された。
- (17) 大学病院医療情報ネットワーク20周年記念行事についての紹介があった。
- (18) 財団法人交流協会からの経費助成事業案内について，HP上で周知することとなった。また，NRIの開催計画状況等についての報告があった。
以下，メーリング理事会。
- (19) 入会について，承認された。
(正会員) 1名
(準学生会員) 1名
また，「第3回放射線防護研究センターシンポジウム」の後援について承認された。
(11月19日付)[メーリング理事会 H20-17]
- (20) 入退会について承認された。
入会：(正会員) 1名，(準学生会員) 1名
退会：(正会員) 1名
また，「第9回トリチウム科学技術国際会議」及び「第27回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大

会」の協賛・名義使用について承認された。

(11月28日付) [メーリング理事会 H20-18]

(21) 放射線防護標準化委員会の委員の交代について承認された。

(12月22日付) [メーリング理事会 H20-19]

(22) 退会について、承認された。

退会：(正会員) 4名

(1月9日付) [メーリング理事会 H20-20]

(原子力機構 村上 博幸)

平成20年度第5回 理事会 議事概要

1. 日時：平成21年1月22日(木) 13:30~16:40
2. 場所：原子力機構 システム計算センター(上野) 7F 大会議室1
3. 出席者
理事：小田(会長), 猪俣, 太田, 斎藤, 杉浦, 服部, 林, 古田, 山澤, 村上
監事：下, 千葉
参与：荻野
委任出席：酒井, 谷口, 福士, 小池
4. 議事概要
 - (1) 編集委員会活動報告の内容等について紹介があり、メディカルオンライン(学会誌PDFデータベース)への参画について承認された。印刷会社変更の可能性については、再調整を行うことになった。
 - (2) 企画委員会報告があり、次期専門研究会について新規応募はなく、今年度分の3件を継続させることとしたが、今後、各理事が新規テーマの提案を検討することになった。また、次期インターネットグループの体制についても調整を進めることが報告された。
 - (3) 国際対応委員会報告として、日中韓3カ国連携の状況、IRPA13のプログラム委員会メンバーの推薦及び文科省からのICRP勧告の訳語検討依頼への対応等について説明があった。この中で、平成21年度の研究発表会に中韓の研究者を招待することが確認された。IRPA13のプログラム委員会をサポートするcorrespondingメンバーの推薦依頼に対し、2人の推薦を決定したが、さらに他の適当な人物について今後1週間をめどに会長に連絡することになった。
 - (4) 放射線防護標準化委員会幹事会及び専門部会準備会等の状況報告があり、「現存する被ばく状況に関する防護の安全規準」とそのガイドラインが近く委員会の書面投票に付されること、ウラン廃棄物処分場に係るガイドラインの作成に着手すること、用語集の作成計画等について紹介があった。
 - (5) 第2回学生発表会の概要報告(於：東大)があった。また、次年度についても、若手研と共同で発表会を神戸で開催すること等が報告された。
 - (6) 平成20年度第3四半期における会計状況についての報告があり、この中で、IRPA12への参加補助費、中韓研究発表会への参加費用等の計上費目の修正をすることとした。また、各専門研究会の会計報告依頼、及び次年度概算予算要求の早期提出にかかる依頼があった。
 - (7) 放射線安全管理学会の研究発表会におけるパネル討論について紹介があり、主任者部会を含めた3者がゆるい連合体として活動すること、英文誌の合同発刊にかかる提案があったことが紹介された。また、11月に開催されたJARRの幹事会の内容について報告があり、AARRへの参加、AARRからIARRへ理事を出す活動を行うこと、2015年にICRRを日本に招致することについて所属学会全体で協力すること等が紹介された。さらに、世界原子力大学夏期研修支援対象者の募集活動についての紹介があった。
 - (8) 若手研の活動状況報告があった。また、若手研幹事会合等の際の一部参加者に対する旅費の支給について、次年度予算要求をすることが了解された。
 - (9) 法人制度の検討について、保物セミナー、日本放射線安全管理学会での説明状況、及びHP上での説明資料、識者への相談状況等について紹介があった。今後、非営利型法人に適した定款案の検討等を行うスケジュール、次期理事会への引継ぎ等を進めること等が確認された。
 - (10) 平成21年度学会賞に係る今後のスケジュールについて確認された。また、理事会、各委員会から貢献賞の推薦についての検討の要請があった。
 - (11) 会員種別一覧、個人情報保護方針最終案について説明があり、HP上等で周知することが了解された。また、会員証について印刷実施状況及び配布方法等について説明があった。さらに特別会員について、再度各理事に推薦提案を促すこととなった。

-
-
- (12) 入退会について承認された。
入会：（正会員）3名，（準学生会員）1名
退会：（正会員）3名
- (13) 平成20年度放射線影響研究功績賞に2人の会員を推薦することについて報告があった。
- (14) 平成21-22年度役員選挙の状況について説明があった。特に監事については選挙管理委員長より会長宛の無投票当選の報告が紹介された。
- (15) 第43回研究発表会準備状況について中韓の招待内容について確認された。また、総会の時間設定については、引き続き検討されることとなった。
以下、メーリング理事会。
- (16) 入退会等について、承認された。
入会：（正会員）3名
退会：（正会員）2名
会員種別変更：（正会員→正学生会員）1名
(2月9日付) [メーリング理事会 H20-21]
- (17) 平成21年4月1日現在70歳以上の正会員(会費未納者等を除く)及び理事から推薦のあった方(総計50人)について、特別会員として推薦することを決定した。
(2月13日付) [メーリング理事会 H20-22]
- (18) 入退会について承認された。
入会：（正会員）5名
退会：（正会員）3名
(2月23日付)[メーリング理事会 H20-23]
- (19) 入退会等の承認について承認された。
入会：（正会員）4名，（正学生会員）2名，（準学生会員）3名
退会：（正会員）1名
また、原子力総合シンポジウムの共催、同共催金(2口1万円)の支出、運営委員の推薦について承認された。
(3月4日付) [メーリング理事会 H20-24]
- (20) 退会について承認された。
退会：（正会員）4名
(3月12日付)[メーリング理事会 H20-25]

(原子力機構 村上 博幸)

平成20年度第6回 理事会 議事概要

- 日時：平成21年3月28日（土）13:30～16:00
- 場所：秋葉原ダイビル 12F 首都大学東京秋葉原キャンパス A会議室
- 出席者
理事：小田（会長），猪俣，太田，斎藤，酒井，杉浦，服部，林，福土，古田，山澤，村上
監事：下，千葉
参与：小池，荻野
委任出席：谷口
- 議事概要
 - 編集委員会活動報告があり、この中で印刷会社の変更について、印刷費の節約の可能性があるので、その検討を次期理事会に引き継ぐこととした。
 - 企画委員会報告で、専門研究会については、次期(H21年度)は新規のものが今のところ出てきていないが、今後も提案応募を受けることとした。
 - 国際対応委員会報告では、IRPA対応、日中韓3カ国連携、IRPA13プログラム委員会からの依頼等について報告があり、この中で、IRPA理事の地域枠確保主張の件、3カ国連携に係る予算要求の件、3カ国以外のアジア太平洋地域の国との連携に関する意見等についての説明があった。また、IRPA13国際プログラム委員会会合報告が紹介された。
 - 放射線防護標準化委員会第24回幹事会及び第3回専門部会準備会等の状況報告があり、この中で、「現存する被ばく状況に関する防護の安全基準」等の委員会書面投票及び一般公衆審査の結果について報告された。
 - 大学教員等協議会について、規約の制定を含め活性化のための検討を行うこと、次期会長の人選等について説明

- があった。学友会活動については、準学生会員の増加に伴い、活動がうまくいっていることなどの説明があった。
- (6) 広報関係では、報道機関への情報提供の継続、質問対応機能を含めたホームページ等の改善などの提案について紹介があった。
- (7) 平成 20 年度予算の収支の現状、平成 21 年度予算要求状況等について説明があった。細かな金額数字の変更や収支計算書への記載ぶり等について検討の必要があり、それらを含めて次期会計理事に引き継ぐこととした。
- (8) 放射線安全管理学会関連報告、JARR 関係報告、原子力学会 CPD 関係報告があり、この中で放射線安全管理学会のシンポジウムにおける提案（緩い合同体、合同英文誌）の紹介があった。また、JARR の幹事、AARR の幹事の人選については、次期理事会へ引き継ぐこととした。
- (9) 若手研の活動状況報告があり、この中で第 43 回研究発表会の若手セッションにおける計画、平成 21 年度活動計画等について紹介があった。
- (10) 学会の法人化検討 WG の報告書(案)の内容について説明があった。今後、将来を十分に視野に入れて進めること、会員に対して報告書の内容をさらに十分に説明する必要があるとの意見があり、今回の案に対するコメントを受けて報告書をまとめ、次期総会で会員に説明することとなった。
- (11) 平成 21 年度学会賞の審議結果について報告があり、受賞案件 3 件について承認された。また、論文賞の推薦のあり方、奨励賞の拡大等についての意見があり、次期委員会における検討事項とすることとした。
- (12) 退会について承認された。
退会：（正会員）3 名、（賛助会員）1 機関
- (13) 理事・監事は、4 月 24 日までに今期活動に係る自己評価を提出することとなった。
- (14) 第 49 回総会資料の作成について、今期役員は、総会資料の平成 20 年度事業報告について担当分を作成し、早めに新総務理事に提出することとなった。
- (15) 第 43 回研究発表会準備状況について説明があり、口頭発表、ポスター等の応募状況、実行委員会メンバー等について紹介があった。3 カ国連携プログラムに関連し、中国及び韓国に対し、早めに連絡することが確認された。
- (16) 第 26 回日本エアロゾル科学・技術研究討論会の協賛依頼について承認された。NRE9 後援に係る名義使用許諾について紹介があり、承認された。
- (17) 会長任期の延長に係る定款改定の提案があり、次期理事会に対し引き続きの検討を依頼することとした。

(原子力機構 村上 博幸)

平成 21 年度第 1 回 理事会 議事概要

1. 日時：平成 21 年 3 月 28 日（土）16:00～17:30
2. 場所：秋葉原ダイビル 12F 首都大学東京秋葉原キャンパス A 会議室
3. 出席者
理事：金子（会長）、近江、太田、小佐古、酒井、杉浦、鈴木、服部、村山、百瀬、安岡、猪俣
監事：林、村上
参与：小池、荻野
4. 議事概要
 - (1) 新理事の自己紹介を行った。
 - (2) 新規理事会における役割分担を以下のとおり決定した。

会長	金子
副会長、特任（他学会連携、JARR 幹事）	杉浦
総務	猪俣
企画（委員長）	百瀬
企画	太田
広報、総務補佐	近江
編集（委員長）、国際対応	服部
編集、大学等教員協議会、学友会	安岡
国際対応（委員長）、AOARP 幹事	酒井
標準化委員会（委員長）、AOCRP-3 組織委員長	小佐古
標準化	鈴木
会計	村山
監事	林、村上
 - (3) 平成 21 年度の活動方針について、次の意見があり、総会に向けて具体的な活動計画を検討することとなった。

-
- ・ 関連諸団体との連携及び協力については、放射線影響学会・RI協会・原子力学会保健物理環境科学部会など範囲の拡大の検討
 - ・ 学会活動活性化については、男女をキーワードとした活動の検討
 - ・ 法人化に向けた条件整備については、そのタイミングの検討
 - ・ 国際的な連携強化については、アジアのみならず欧米への拡大も含めた検討
 - ・ 学会誌等については、インパクトファクター取得に向けた検討
 - ・ 広報活動については、学会としてのステートメント発信の検討
- (4) 訪問研究者会 (Visiting Researcher's Community, ViC) の設置について紹介があった。
- (5) 総会資料の準備について、別途総務理事より各担当理事に依頼することとなった。
以下メーリング理事会
- (6) [メーリング理事会 H21-01] 編集委員会委員について承認された。(4月8日付)
- (7) [メーリング理事会 H21-02] 第21回放射線夏の学校への共催について承認された。(4月24日付)
(原技協 猪俣 一朗)

企画委員会報告

平成20年度第4回企画委員会 議事録

1. 日時：平成21年3月19日(木) 15:00~17:00
2. 場所：原子力研究開発機構システム計算科学センター
3. 出席者
古田(委員長), 太田, 飯本, 大内, 伴, 渡辺^想, 細田, 中田(幹事)
4. 議題
 - (1) 平成20年第3回企画委員会議事録(案)
 - (2) 理事会報告
 - (3) 専門研究会活動報告
 - (4) 20年度企画委員会総括
 - (5) 次期企画委員会
 - (6) インターネットグループ報告
 - (7) その他
配布資料
 - 4-1 平成20年第2回企画委員会議事録(案)
 - 4-2 平成20年度第5回保健物理学会理事会議事録
 - 4-3 平成21年度概算予算案
 - 4-4 インターネットグループの活動について
5. 議事
 - (1) 第3回企画委員会議事録確認
前回会合の議事録を確認し了承された。
 - (2) 理事会報告
理事会での議事・報告事項を確認した。
 - (3) 専門研究会活動報告
各専門研究会担当委員から以下のように報告があった。
 - ・ 放射線のリスクコミュニケーション検討専門研究会については、今年度で終了となるが、継続的な活動が必要との判断から専門研究会とは位置づけを変え、今後も活動を続ける旨の報告があった。また、第43回研究発表会では、討論会を開催予定。
 - ・ ラドン測定標準化専門研究会では、国際的な動向の情報交換及び12~1月に実施したインターコンパリソン試験の解析を実施。
 - ・ 医療放射線リスク専門研究会では、4月に会合を開催し、報告書について討論する予定。
 - ・ 放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会では3月9日に第4回会合を開催し、国際動向の確認等を実施。(詳細はNewsletter各専門委員会報告を参照)。
 - (4) 20年度企画委員会総括
平成20年度に実施した企画等について確認した。今年度実施内容は、シンポジウム2件、保物セミナー1件、放射線管

理学会パネルディスカッション 1 件, その他他学会との共催等を実施した。また, その他にメーリングリスト登録者増員キャンペーンやニュースレターの発行を実施した。

(5) 次期企画委員会について

資料 4-3 に基づき来年度の概算予算案が確認された。次期専門研究会については, 国際機関等において屋内ラドンの線量換算係数や参考レベルの値が大きく変更される可能性があり, その対応のための専門研究会または対応委員会の再設置について前回会合で提案された。しかし, 設置に関しては, ICRP や WHO の動向が未定なため, 開始時期については来年度調整することとした。

来年度シンポジウムについては, 委員が確定する来年度第一回会合で計画するが, 他学会との共催については, 会員の選択肢が増えることから継続して実施していくことが確認された。

(6) インターネットグループ報告

- ・ インターネットグループの体制について, 3 月で荻野氏(電中研), 佐川氏(福山大学)が退任し, 中川氏(原子力機構), 大倉氏(原子力機構), 平尾氏(名古屋大)が加わる旨の報告があった。
- ・ メーリングリスト登録者増員に向けた入会時の案内及び学会誌への折り込み等は継続して続けていくことで合意。
- ・ Newsletter No.54 は, 5 月中旬を目途に発行することとした。

(7) その他

- ・ 6 月の研究発表会において, 各専門研究会及び企画委員会からポスターを各 1 枚ずつ発表することが確認された(ICRP 専門研究会は, 発表の確認が取れていないため, 後日確認)。
- ・ 次回の会合は, 5 月頃を予定し調整する。

(企画委員会 原子力機構 中田 陽)

編集委員会報告

平成 20 年度第 3 回 編集委員会 議事録

1. 日時：平成 20 年 12 月 11 日 (木) 13:30~16:15
2. 場所：日本原子力研究開発機構システム計算科学センター大会議室
3. 出席：斎藤 (委員長), 木名瀬 (幹事), 石川, 木内, 真田, 中野, 安岡, 西浦, 山澤, 笠原 (事務局)
4. 議 題
 - (1) 第 2 回編集委員会議事録確認
 - (2) 査読手続きと通知形式
 - (3) 学会賞論文賞推薦
 - (4) メディカルオンライン参画
 - (5) 企画記事提案
 - (6) 論文審査状況, 43-4, 44-1 号編集進捗状況の確認
 - (7) その他
 - 配布資料
 - 3-1 2008 年度第 2 回編集委員会議事録 (案)
 - 3-2-1 査読手続きに関する確認
 - 3-2-2 英文通知の雛形
 - 3-3 学会賞論文賞の推薦の方法について(覚書;その 11)
 - 3-4 メディカルオンライン参画のお願い
 - 3-5-1 企画記事提案 1
 - 3-5-2 企画記事提案 2
 - 3-6-1 A パート進捗状況
 - 3-6-2 B パート進捗状況
 - 3-6-3 C パート進捗状況
 - 3-6-4 若手研究会記事
 - 3-7-1 43-4, 44-1 号編集状況
 - 3-7-2 論文審査状況
- 参考3-1 平成 20 年度電子アーカイブ対象誌の選定
- 参考3-2 科学技術振興機構の電子アーカイブ対象誌の選定について
- 参考3-3 歴代編集委員リスト

参考3-4 Radiation Protection in the World 調査

参考3-5-1 論文賞選考資料 1

参考3-5-2 論文賞選考資料 2

5. 議事

(1) 前回議事録の確認

2008 年度第 2 回編集委員会議事録が承認された。

(2) 査読手続きと通知形式

投稿原稿に対する査読委員の判定項目追加について提案され了承された。これに関連し、査読委員から「要修正」、「再投稿」がなされた投稿原稿について、編集委員会内の手続きを確認した。さらに、査読委員選定、原稿の区分・種類の判断について現状を確認し、今後必要に応じて投稿規程等の変更を検討することとした。

投稿英文原稿に対する通知等のフォーマットについて提案があり適宜利用することが了承された。

(3) 学会賞論文賞推薦

平成 20 年度学会賞論文賞について検討し、推薦論文候補を抽出した。今後、査読委員等の評価を考慮し、論文賞候補を決定することとした。

(4) メディカルオンライン参画

医学系学術文献配信サイトへの参画について提案され了承された。

(5) 企画記事提案

A, B, C パートの企画記事が提案され了承された。日本保健物理学会シンポジウム「低線量放射線による生物影響の最前線」の中から解説記事として執筆を依頼することとした。今年度の学会賞論文賞の英文記事の掲載が提案され了承された。

(6) 論文審査状況、44-3,44-1 号編集進捗状況の確認

次号 44-1 号以降の掲載論文の審査状況が確認された。

(7) その他

科学技術振興機構の電子アーカイブ対象誌として保健物理誌が選定されたことが報告された。また、「Radiation Protection in the World」コーナーの設置に向けた調査状況について説明があり、国外の機関のホームページにおいて公表されている保健物理に関連した英文記事の著作権について調査することになった。次回の会合は、平成 21 年 3 月中旬を目処に日程を調整し、東京で開催されることとなった。

(編集委員会幹事 原子力機構 木名瀬 栄)

平成 20 年度第 4 回編集委員会及び平成 21 年度第 1 回編集委員会合同委員会議事録 (案)

1. 日時：平成 21 年 4 月 13 日(月)13：30～17：00

2. 場所：日本原子力研究開発機構システム計算科学 センター (上野) 大会議室

3. 出席：斎藤 (旧委員長)、木名瀬 (旧幹事)、服部 (新委員長)、佐々木 (新幹事)、安岡 (新担当理事)、石川、赤羽 (以上、旧委員)、横山、真田、中野、三枝、石森、森泉、西浦、林、古田、山口、(以上、新委員)、大倉 (若手)、笠原 (事務局)

4. 議 題

(1) 新旧編集委員長の挨拶、新旧編集委員の紹介

(2) 前回議事録の確認

(3) 平成 19, 20 年度の活動報告

(4) 保健物理」投稿規則等の確認

(5) 覚書の確認

(6) 査読方針と査読に係る検討

(7) 企画記事提案

(8) 各パート進捗状況

(9) 44-1, 44-2 編集進捗状況の確認、論文審査状況

(10) その他

配布資料

4-1 2008 年度第 3 回編集委員会議事録 (案)

4-2 平成 19, 20 年度の活動

4-3 「保健物理」投稿規則

4-4 「保健物理」投稿の手引き

4-5 Japanese Journal of Health Physics Instructions to Authors

4-6 覚書

4-7-1 査読方針

4-7-2 査読者への返事フォーマット

4-7-3 英語通知書式

4-7-4 論文原稿受理から掲載までに要する日数の統計

4-8-1 企画記事提案書式

4-8-2 企画記事提案書式例 1

4-8-3 PR 執筆候補者

4-9-1 A パート進捗状況

4-9-2 B パート進捗状況

4-9-3 C パート進捗状況

4-9-4 若手記事の提案

4-10-1 44-1, 44-2 号編集状況

4-10-2 論文審査状況

参考資料

参考4-1 歴代編集委員リスト

参考4-2-1 日本保健物理学会新旧編集委員会名簿

参考4-2-2 新旧編集委員会名簿

参考4-2-3 新編集委員会名簿

参考4-3 担当表

参考4-4 平成 21 年度活動方針(案)

5. 議事

(1) 新旧編集委員長の挨拶, 新旧編集委員の紹介

新旧編集委員長の挨拶, 新旧編集委員の紹介がなされ, 各委員の専門が確認された。服部新委員長から, 平成 21 年度活動方針(案)についての紹介があった。

(2) 前回議事録の確認

平成 20 年度第 3 回編集委員会の議事録が承認された。

(3) 平成 19, 20 年度の活動報告

斎藤旧委員長より, 平成 19, 20 年度の活動について報告された。編集作業分担の公平化, 定常的な記事の創出, 作業の効率化と継続性に努め, 今後の課題として, インパクトファクターの獲得, 電子媒体による公開作業の継続等があることが確認された。

(4) 「保健物理」投稿規則等の確認

規則改訂内容の概要について確認し, 平成 21 年度への引き継ぎ事項について整理した。

(5) 覚書の確認

覚書改訂内容の概要について確認し, 平成 21 年度への引き継ぎ事項について整理した。

(6) 査読方針と査読に係る検討

査読に係る改訂内容の概要について確認し, 平成 21 年度への引き継ぎ事項などについて整理した。著者との連絡に使用する定型文が整備されているものの, 更なるスピードアップが必要であることが確認された。

(7) 企画記事提案

企画記事の提案について, 提案書式及び記事区分などが確認された。平成 20 年度の卒業論文, 修士論文, 博士論文を, メーリングリストで募集することが承認された。

(8) 各パート進捗状況

44-2 号以降の企画記事の進行状況が各パート幹事より紹介された。なお, 平成 21 年度編集委員会のパート幹事及びパート副幹事は, A 区分 (横山, 三枝) B 区分 (真田, 石森) C 区分 (中野, 森泉) の各委員が担当することとなった。

(9) 44-1, 44-2 編集進捗状況の確認, 論文審査状況

編集事務局より, 同号の編集状況, 論文審査状況について紹介があり, 確認された。

(10) その他

次回の会合は, 平成 21 年 6 月 12 日 (金) 13 時 30 分から, 東京で開催されることとなった。

(編集委員会新幹事 電中研 佐々木 道也)

国際対応委員会報告

1. 国際連携活動報告

(1) 国際動向の把握と対応

昨年度の国際連携活動のうち、IRPA-12 に関する報告（服部隆利 国際対応委員会副委員長）が保健物理誌 43 巻 4 号に、韓国放射線防護学会参加報告（野口邦和会員）が同 44 巻 1 号に掲載された。中国放射線防護学会参加報告（高橋史明会員）についても同 44 巻 1 号に掲載された。

(2) 平成 21・22 年度の陣容

職名	氏名	所属	専門
委員長	酒井 一夫	放射線医学総合研究所	生物影響
副委員長	服部 隆利	電力中央研究所	計測・防護
幹事	伊知地 猛	電力中央研究所	計測・防護
出納	山外 功太郎	日本原子力研究開発機構	放射線管理
委員	赤羽 恵一	放射線医学総合研究所	医療被ばく
〃	飯田 孝夫	名古屋大学	ラドン
〃	加藤 智子	日本原子力研究開発機構	廃棄物
〃	橋本 周	日本原子力研究開発機構	計測・防護・輸送
〃	津田 修一	日本原子力研究開発機構	放射線防護
〃	佐藤 暢秀	東京電力	放射線管理
〃	竹安 正則	日本原子力研究開発機構	放射線管理
〃	伊藤 公雄	日本原子力研究開発機構	線量計測・防護

(放医研 酒井 一夫)

放射線防護標準化委員会

第 3 回 専門部会準備会

1. 日時：平成 21 年 2 月 9 日（月） 10：00～12：00
2. 場所：東電東新ビル 105 会議室
3. 出席者：小佐古（委員長），金子（副委員長）猪俣，服部（理事），飯本，鈴木，橋本，山本（幹事），河田，保田，西藤，荻野（委員），佐藤（オブザーバー）
4. 議事概要
 - (1) 表面汚染作業会の作業進捗状況について
作業会の進捗状況の説明ののち，以下の議論があった。
 - ・「物に対する基準」作成に当たっては，原安技センターのマニュアル・記録・管理などが参考となる。
 - ・公衆の内部被ばくは重要。外部被ばくはあまり問題とならない。
 - ・持ち出し基準をクリアランスと同じ体系に入れるかどうかの議論が必要。
 - ・調査の対象にウラン関係の事業者を加える。
 - (2) ウラン廃棄物作業会の作業進捗状況について
作業会の進捗状況の説明ののち，以下の議論があった。
 - ・今後の作業会の活動は，中心の数名が中心となり原案を作成し，節目節目で全体会合を行ったらどうか。
 - ・名称を「ウラン作業会」とする。

(放射線防護標準化委員会幹事 東京大学 飯本 武志)

第 24 回 幹事会

1. 日時：平成 21 年 2 月 9 日（月） 12：00～14：00
2. 場所：東電東新ビル 105 会議室

3. 出席者：小佐古（委員長），金子（副委員長），猪俣，服部（理事），飯本，鈴木，橋本（幹事），河田，西藤，荻野，保田，佐藤（オブザーバー）

4. 議事概要

(1) 日本保健物理学会放射線防護標準化委員会「現存する被ばく状況に関する防護の安全規準(案)等について」の投票結果について

委員総数 25 名中 24 名が賛成，1 名が意見付保留。公衆審査に入る。また，保留意見については幹事会で見解を出し対応することとした。

(2) 専門部会準備会及び作業会の委員委嘱について

委員委嘱に放射線防護標準化委員会委員長の公印を使用することが決まった。

(3) 旅費支給対象者拡大について

専門部会準備会の委員は旅費支給の対象となっていないが，できるだけ支給されるよう理事会にて提案することにした。

(4) 平成 20 年度収支見込みと平成 21 年度活動予算について

平成 20 年度の収支見込みを踏まえ，平成 21 年度の活動予算を検討した。専門部会準備会の委員の旅費を考慮し，平成 20 年度予算より多めの予算案を提出することにした。

(5) 専門部会準備会の運営に関する細則の改正について

旅費支給に関する条項の追加，幹事会の役割に関する箇条との追加等について提案があり，次回標準化委員会に諮ることとした。

(放射線防護標準化委員会幹事 東京大学 飯本 武志)

第 25 回 幹事会

1. 日時：平成 21 年 3 月 25 日(水)18：00～20：50

2. 場所：東電東新ビル 105 会議室

3. 出席者：小佐古（委員長），金子（副委員長），猪俣，服部（理事），飯本，杉浦，鈴木，橋本，田中（幹事），河田，佐藤（オブザーバー）

4. 議事概要

(1) 「現存する被ばく状況に関する防護の安全規準およびガイドライン」の制定と重要な概念「行為と介入」の改定の公衆審査結果について制定，改定に対して公衆からのコメントは無かった。よって，公衆審査の最終日（3 月 24 日）を制定，改定日とすることにした。

(2) 放射線防護標準化委員会の活動に関する情宣の実施概要について標準化委員会の設立経緯，活動状況について，文部科学省放射線規制室と原子力安全・保安院 原子力安全技術基盤課に説明を行った。今後は放射線防護標準化委員会へのオブザーバー参加を働きかけていく。

(3) 第 43 回研究発表会の対応について

日本保健物理学会第 43 回研究発表会で，放射線防護標準化委員会の活動をアピールするため，2 つの放射線防護標準化委員会セッションにて，講演及び意見交換を行う。

(4) 第 46 回アイソトープ・放射線研究発表会の対応について

4 件のシリーズ発表をセッション放射線管理 (2) で行うこととした。

(5) 小冊子，パンフレット，ホームページ等のアップデートについて

新たな規準も制定され，現在の記事が古くなってきたので順次内容を更新することにした。

(6) 標準化委員会データベースの提供と，閲覧について

標準化委員会委員，専門部会準備会委員と作業会委員に対して，標準化委員会資料等のデータベースの提供と閲覧方法が議論された。

(7) 専門部会準備会の運営内規について

原案が提示された。今後検討を継続する。

(放射線防護標準化委員会幹事 東京大学 飯本 武志)

大学等教員協議会

1. 大学等教員協議会会合

大阪での研究発表会で大学等教員協議会の会合を予定しております。C 会場で 6 月 4 日（2 日目）昼食時に行う予定ですので，是非，ご出席下さいますようお願い申し上げます。「近況報告，大学等教員協議会で議論して欲し

い話題、提案」などを安岡由美（神戸薬大） yasuoka@kobepharmaceutical-u.ac.jp までお寄せください。

締切：5月25日

2. 研究発表会（大阪） 学友会企画セッション

大阪での研究発表会で学友会企画セッションを大学等教員協議会との共同企画とする予定です。是非、ご出席下さいますようお願い申し上げます。人数把握のため、事前（締切：5月25日）に参加希望を安岡由美（神戸薬大） yasuoka@kobepharmaceutical-u.ac.jp まで、お知らせください。

テーマ：教員が望む学生、学生が望む教員

形式：グループ討論形式

予定日時：6月4日（2日目）9時～10時（C会場）

（神戸薬科大学 安岡 由美）

法人化検討WG

1. 日時：平成21年3月14日（土）16:00～16:45

2. 場所：株式会社千代田テクノ本社2階会議室

3. 出席：小田、杉浦、太田、林、金子（次期会長、オブザーバー）

4. 議題

(1) 前回議事録の確認

第3回会合の議事録は既にメールにて確認された。

(2) 第2回説明会について

本会合の直前に行われた第2回説明会における福島氏の解説内容の確認を行った。要約すると以下の通りである。

・ ①任意団体のまま、②NPO法人、③一般社団法人の選択肢がある。

・ ①の選択は「社会的に信用されない」ととられる。

（「誰でも設立できる法人なのに、そのままのままでいる」ことに対する説明は困難）

・ 最近、国税庁は学会（NPO法人）を狙っているようである。

（重要な学会活動の内、学術集会の分に対する追徴課税）

・ 一般社団法人は、当初「課税」となっていたが、その後、「非営利型」と「普通型」に分かれ、前者では会費、寄付金に加えて財産に対しても非課税となり、事務所、事務職員等の条件も課されていないので、現時点では学会にとって最も適している法人と言える。（無理して公益社団法人を目指す必要はない）

・ 現在と比べると、住民税、税務申告税など約20万円の費用増でおさまりそう。

(3) 報告書における提言について

上記の内容を含めて意見交換を行った。他の学会が移行しないから何もしない、というより、ここまで時間と労力をかけて調査した結果を踏まえて、一歩進むような提言を行うべきという意見が強かった。

(4) 検討結果のまとめについて

再来週を目途に、報告書の原案を主査がまとめる。これを委員がチェックし、今年度最終の理事会に提出することになった。

（神戸大 小田 啓二）

若手研究会

活動報告

1. 主査・幹事会合の実施

主査・幹事会合を4月3日に電力中央研究所大手町第3会議室にて開催いたしました。主な議題は以下の通りとなっております。

(1) 理事会への女性参与の選任

(2) 第4回若手研勉強会の企画

(3) JHPS 学会誌（若手研究会のページ）

(4) 平成21年度若手研究会予算

(5) 第49回日本保健物理学会総会討議資料

(6) 第43回研究発表会の若手セッション

2. 第4回若手勉強会の開催案内

今年度より、若手勉強会が定期的開催することになりました。第4回勉強会は、東京大学の飯本武志先生を講師として招き、「現存する被ばく状況に関する防護」というタイトルでご講演を頂戴する予定です。特に若手の皆様、是非、積極的にご参加下さい。

日時：平成21年5月22日（金）午後～23日（土）

場所：東京（予定）

講師：飯本武志氏（東京大学、環境安全本部）

講演：「現存する被ばく状況に関する防護」

今後も興味深い勉強会をどんどん開催してまいりますので、皆様（特に若手の方歓迎）も是非ご参加ください。

3. 第43回研究発表会における若手研究会企画

平成21年6月3、4日に開催される第43回日本保健物理学会研究発表会において、「放射線防護の将来を考える」と題し、若手研究会セッションを企画しております。本セッションを実施するあたり、平成21年度からの新理事の考える「放射線防護の将来」、若手の考える「放射線防護の将来」をアンケート方式で事前に調査いたしました。その報告も含め、以下の内容で展開する予定です。若手研では、継続的な人材育成、技術の伝達などの観点から、今後の放射線防護のあり方について、学会員同士の活発な意見交換の場を提供することを考えております。是非、ご参加下さい。

「放射線防護の将来を考える」 座長 山外功太郎

- 1) 日本保健物理学会若手研究会紹介
- 2) 新理事の考える「放射線防護の将来」のあり方
- 3) 若手の考える「放射線防護の将来」のあり方
- 4) 会場参加型討論

4. 会員の募集

若手研究会では会員を随時募集しております。現在の会員は39名（平成21年4月1日）です。35歳以下の学会員であれば、どなたでも入会資格がありますので、下記の主査あるいは幹事までお気軽にご連絡下さい。

主査：山外 功太郎（日本原子力研究開発機構）

TEL：029-282-5183, FAX：029-282-5933

E-mail：yamasoto.kotaro@jaea.go.jp

幹事：荻野 晴之（電力中央研究所）

TEL：03-3480-2111, FAX：03-3480-3564

E-mail：haruyuki@criepi.denken.or.jp

幹事：小池 裕也（東京大学）

TEL：03-5841-2876, FAX：03-5841-3049

E-mail：koi@ric.u-tokyo.ac.jp

（原子力機構 山外 功太郎）

学友会

活動報告

6月3、4日に大阪で行われる日本保健物理学会第43回研究発表会において、学友会は「教員が望む学生、学生が望む教員」をテーマにグループディスカッションをすることに決定しました。具体的には、いくつかのグループ（教員1名、学生数名）にわかれ、教員が望む学生像、及び学生が望む教員像について、両者話し合います。最後に、各グループの学生がまとめで発表することを考えています。

他には、5月21日に宇宙航空研究開発機構JAXA 筑波宇宙センターに学友会メンバー19名で見学に行く予定です。そこでは宇宙飛行士の被ばく管理について学ぶ予定です。

以上、学友会活動報告でした。

（東京大学工学系研究科1年 嶋田 和真）

専門研究会報告

ICRP 新消化管モデル

本専門研究会では、ICRP Publ.100「放射線防護のためのヒト消化管モデル」について、学会員の共通の理解と情報共有のため活動しています。

第7回会合を3月18日（於 放医研）に開催しました。第7回会合では、ICRP新消化管モデルに関連する講演として、① EURADOS CONRAD Projectにおけるヒト消化管モデルの検討（石博主査）、② ICRP Publ.100のFeの再循環モデルと非再循環近似モデルの検討（波戸委員）、③ IAEA/BSS（国際基本安全基準）の改訂状況について（伊藤幹事）の3件の講演を行い、各々新消化管モデルとの関連等について議論を行いました。また、会務として、本専門研究会報告書 part2 及び6月の研究発表会での特別セッションについて議論しました。議論の結果、報告書については、今年度実施した講演内容を整理し取りまとめることとし、特別セッションについては、ICRP Publ.100の内容紹介を中心に発表し、本専門研究会の活動報告とすることとしました。

本専門研究会は今回をもって当初予定の期間を終了し、一区切りとなります。本専門研究会は国内の関係者が内部被ばくに関連してICRPの情報を身近に入手できる場としても貴重なものでした。今年度は本専門研究会を引き継ぐような場はありませんが、また同じようなメンバーで集まる機会の得られることを期待して、本専門研究会を終了しました。

なお、開催を検討していたシンポジウムについては、本専門研究会の内容だけでは開催が困難と判断し取りやめしましたので、併せてお知らせします。

（原子力機構 伊藤 公雄）

医療放射線リスク

これまで進めてきた文献レビューのまとめを行うために、4月に第2回の会合を開催した。レビューの対象としたのは、医療被ばくのリスクに関して話題となった最近の論文4編であるが、最近の情報も交えながら、医療放射線のリスク評価をめぐる諸問題について議論した。低線量影響に対するリスク評価の意義、医療現場の受け止め方等、様々な角度から意見を交換し、低線量の放射線影響に関して科学の議論とリスク論の議論を明確に分ける必要があることを確認した。本専門研究会ではリスク論からのアプローチが中心となるが、科学に関する最低限の事項として、100mSv以下ではリスクの実態が明確ではないとされる点について、主要国際機関の見解を整理することとした。

[構成メンバー] 甲斐倫明（大分看科大：主査）、太田勝正（名大）、小野孝二（大分三重病院）、酒井一夫（放医研）、長谷川隆幸（東海大）、伴信彦（大分看科大：幹事）、福土政広（首都大学東京）、吉永信治（放医研）

（大分看科大 伴 信彦）

放射線安全新パラダイム

本専門研究会では、従前からの放射線防護の考え方をレビューし、放射線安全についての新しいパラダイムを検討することを目的として活動しています。

第4回会合を3月9日（於 東京）に開催しました。

この会合では、新しい放射線防護の考え方や原則を検討するための実情調査の一環として、海外の動向に関する情報共有が行われ、会合の前週に行われた米国NCRP第45回年次総会へ参加した主査・委員から、主に米国の政権交代による原子力関連機関への影響について報告がありました。

また、放射線防護関連の安全審査指針類の体系化の必要性やLNT仮説および集団実効線量等に係る状況紹介が話題提供としてなされ、協議されました。

今後の活動として、実情調査を引き続き行くと共に、具体的なアクション（保安院への働きかけ、事業者との意見交換）を行う予定です。

（原子力機構 中田 陽）

大学等における放射線安全管理教育連絡会

大学等における放射線安全管理教育連絡会では、医療分野で放射線を扱う主な職種の放射線安全教育のモデルカリキュラムの作成を検討しており、報告書の作成準備を行っている。対象となる主な職種としては、医師、診療放射線技師、看護師、薬剤師の4職種と考えている。現在、委員に放射線安全管理学関連の資料をお送り検討を進めている。

（放医研 細田 正洋）

学会掲示板

AOCR-3 開催のお知らせ

第3回アジア・オセアニア放射線防護会議（AOCR-3）2010年5月東京開催のお知らせ

原子力関連施設の放射線業務従事者及び周辺住民の放射線被ばくについて、被ばく線量の測定技術の開発、影響の評価、基準の妥当性などについて、原子力開発が急速に進展している中国、韓国、インドなどアジア諸国の放射線安全分野の学識経験者、研究者、従事者、規制者などの関係者が一同に会し、情報交換および議論する場を提供し、今後の放射線防護分野の進展に資することを趣旨とします。詳細な情報は、<http://www.aocrp-3.org>をご覧ください。

1. 会期・場所

平成22年(2010年)5月24日(月)～28日(金)

タワーホール船堀(都営新宿線船堀駅前)

注:会期前日(5月23日(日))にサテライトシンポジウムを東大にて開催予定

最終日(28(金))はテクニカルツアーを計画中。

2. 委員会関係

《国際委員会》

International Congress Council および

International Academic Advisors

第1回(メール会議開始:平成21年4月28日)

- ・講師/登壇者案
- ・口頭発表枠の12のキーワード確認
- ・ランチョンS/リフレッシュCの演題案打診
- ・スポンサー打診 等

《国内委員会》

Executive Committee 第1回(平成21年4月27日)

Congress Organization Committee 第1回(平成20年10月9日)

第2回(平成21年2月10日)

3. 重要な締め切り

- ・発表申し込み(自動参加登録) 平成21年12月31日期限
- ・Abstract 提出 平成21年12月31日期限
- ・プロシーディングス提出 平成22年3月31日期限
- ・参加費ディスカウント対象の事前参加登録 平成22年4月30日期限

4. 予稿等

- ・Abstracts; 大会受付にて冊子を配布。事前にHPからダウンロードできる予定
- ・Proceedings; 大会受付にてCDを配布。1題3ページを予定。
- ・Papers; 大会委員会(本目的のための編集委員会を新たに組織)により、全発表から選抜された約130課題について、Radiation Protection Dosimetry 誌のSupple号に掲載予定。

(大会実行委員長 小佐古 敏荘)

(大会事務局長 飯本 武志)

専門研究会の募集継続について

News Letter No.53でお知らせしたとおり、企画委員会では2009年度から新たに開始する専門研究会の募集を継続しています。応募案件がありましたら適宜企画委員会までお寄せください。手続き等の詳細につきましては、以下の学会ホームページに掲載されている専門研究会運営細則をご覧ください。

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jhps/j/outline/rules/rules_pdf/rule_002.pdf

(原子力機構 百瀬 琢磨)

インターネットグループの活動

インターネットグループ(IG)は、保健物理学会企画委員会の傘下で、(1)学会ホームページの管理、(2)学会メーリングリストの管理、(3)ニュースレターの発行に関する活動を行っています。

現在、活動しているメンバーは次のとおりです。

- ・メーリングリスト管理(主査兼務)
山崎 直(原子力機構)
- ・ホームページ保守
中野政尚・吉富 寛・中川貴博・大倉毅史(原子力機構)
- ・ニュースレター編集

鈴木敦雄（静岡県），平尾茂一（名古屋大学）

I G活動へ興味を持たれた方，学会ホームページ等活動内容へ改善案をお持ちの方は，気軽に学会公式アドレス (jhps@wwwsoc.nii.ac.jp) へメールしてください。

I Gに協力していただける方を募集しています。

メーリングリストへのアドレス登録のお願い

日本保健物理学会では学会員の皆様への情報提供を目的として，メーリングリストを運用しております。メーリングリストでは，研究発表会やシンポジウムの開催案内・専門研究会活動・人事公募・ニューズレター発行案内などの情報が，月 10 件程度メールで配信されています。配信を希望される方は，保物事務局 (jhps@iva.jp) まで配信先アドレスを連絡願います。

(I G主査 原子力機構 山崎 直)

学会刊行物の案内

保健物理学会から下記の出版物が刊行されています（括弧内は残部数）。入手ご希望の方は，NPO 事務センターにお申し込み下さい（送料・税別）。なお，学会の研究発表会や企画行事の際には割引価格で販売している刊行物もあります。

- 1) ICRP Publ.66 新呼吸気道モデル概要と解説 (1995) 1,777 円 (30 部)
- 2) ラドンの人体への影響評価専門研究会報告書(1998) 1,700 円 (51 部)
- 3) 高度人体ファントム専門研究会成果報告書(1998) 2,000 円 (81 部)
- 4) 自然界の放射線（能）の面白さ，相互理解の掛け橋に(2001) 1,700 円 (127 部)
- 5) 人々とともにある研究が拓く相互理解と信頼関係(2002) 2,000 円 (159 部)
- 6) 放射線の人体への影響 第 3 版(1986) 800 円（会員割引価格，送料込）（4 部）
- 7) 放射線の人体への影響 第 5 版(1992) 800 円（会員割引価格，送料込）（15 部）

連絡先：日本保健物理学会事務局

野本，永瀬

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-2-11

文献堂ビル 3F

TEL:03-3548-0342 FAX:03-3548-0344

E-mail: jhps@iva.jp

発行：日本保健物理学会企画委員会

編集：企画委員会インターネットグループ

担当：鈴木 敦雄（静岡県環境放射線監視センター）